

令和7年度 大田区立調布大塚小学校 自己評価 報告書

令和8年3月16日

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄										
								評価	人数	コメント								
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来 し社 ま会 すを 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【児童評価】 ・協働することで考えが深まる。86% 【保護者評価】 ・教員は、子どもたちの様子をつかみ、よさを認め、正しい判断ができるよう指導している。80%	4: 肯定的評価 90% 以上	①新教科「おおたの未来づくり」において、教科等横断的な視点で授業デザインして取り組んだ。また、変革をもたらす3つのコンピテンシー「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマに対処する力」「責任ある行動をとる力」を授業や学校生活の中で取り入れ、カードを表示しながら今どの育成につながるのかを児童と共有している。今後は、児童、教員向けの意識調査を元に取組を振り返り、授業デザインや3つのコンピテンシーの活用について改善していく。 ②総合的な学習の時間において、体験活動を通して児童が自分の活動と社会とを結び付けて考えられるように努めた。探究的な活動で、自らの問いについて調べたり、他者と協働してまとめたりする時間を確保した。 ③ICTに関する児童アンケートでは、「タブレット端末で情報を収集して、自分の考えをまとめ、発表することができますか。」の項目において、92%が肯定的に回答しており、多くの児童が身についた力に自信をもってることが分かった。また、上学年が、学習したことをスライドにまとめ、下学年に発表する取り組みは、ICTの新たな活用方法やより分かりやすい表現への気づきを促す機会となっている。来年度も、学校組織として児童の情報活用能力を育成できるよう、他学年との教え合いの機会を継続して設定していきたい。 ④「イノベーションシート」を活用し、設定した身に付けたい行動に対し、毎月振り返りを行っている。また、年に3回の三者面談で学期の振り返りを児童自ら保護者に説明をし、家庭と連携しながら、次の課題につなげている。今後は、児童の意識調査を元に、イノベーションシートの活用方法を検討していく。 ⑤教員一人一人が問題意識を持ち、問いを明確にした。それぞれの個人研究を認知心理学グループにわけ、定期的に集まり情報共有や相互アドバイスをを行うことで組織的に授業改善を図っている。また、研究者とのオンライン相談会や研究実践道場での交流を通して、さらに深く個人研究のテーマに向き合い	A	8	・公開授業等における先生方の取組を見ると細かいところまで目を配り真剣に取り組んでいる様子が見える。 ・児童がタブレットを活用して授業で学んでいるが、先生方が児童に対する進捗状況を把握しながら取り組んでいる様子が見える。 ・非常に高く評価します。 ・3つのコンピテンシーが6年間でしっかりと児童の中に根付いたら、この先の社会生活の中で、力強く生き抜く力が発揮され大活躍する姿が目に見えます。 ・「イノベーションシート」も継続して実施してほしいと思います。 ・毎年、素晴らしい学校経営計画を立てられているので、もっと年間通してアピールしても良いと思います。 ・子どもたちが自発的に考え、発信をし、またタブレットを使いこなしていることに感動しました。 ・「おおたの未来づくり」で大量でいろいろな情報を自ら取捨選択し、他と共有しそこからさらに自分たちの形につくりあげていく様子が見られとても勉強になりました。 ・「おおたの未来づくり」でせせらぎ公園、せせらぎ館での活動など、机上でできない体験から多くの学びが得られていると感じます。 ・本校のICT活用教育は、他校と比較しても先進的で完成度・習熟度も高いと評価しています。若手の先生方にもしっかりと引き継いでほしいと思います。 ・子どもたちの柔軟な考えで未来づくりを想像したり、協働したりすることで子どもにとっても大人にとっても新しい発見がありそうです。また、自身の行動や意識を思い返してみることは近い将来やこれからも行かせると思います。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	3: 70% 以上	B	1				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												4	2: 60% 以上	C	0
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	1: 60% 未満	D	0											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	0																
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																		
③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	1: 60% 未満	D	0													
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4					0												
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																		
④「イノベーションシート」による定期的なAAR(見直し・行動・振り返り)と三者面談での共有を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	1: 60% 未満	D	0													
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4					0												
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																		
⑤個人の研究テーマに立ち戻りながら授業改善に取り組むとともに、組織として授業力向上を目指している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	1: 60% 未満	D	0													
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4					0												
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																		
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが 人る 材国 を際 育都 成市 し	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【保護者評価】 ・学校は地域資源を活用した学習を充実させている。79% ・学校は、地域の力(保護者以外)を子どもたちの教育活動に活かしている。74%	4: 肯定的評価 90% 以上	①ペアやグループ学習を計画的に取り入れ、外国語教育指導員から学んだ文や単語をアウトプットする機会を設けている。外国語活動ではゲーム要素を取り入れ、楽しみながら学習できるようにしている。また、外国語校外学習、イングリッシュウィーク、イングリッシュカフェといった行事を実施し、授業外でも英語に親しむ機会を設けている。今後も継続する。 ②人権啓発作品を制作するにあたって、自分とは異なる文化や価値観について作品の表現につながることを指導している。 ③総合的な学習の時間や、新教科「お	A	8	・外国語教育についてはこれからも授業外等で英語に親しむ機会を継続して進めて、英語力が向上するように指導していきたい。 ・「おおたの未来づくり」は、科目を横断して多面的な学びができることが素晴らしく、時間数もかけているので児童の心にも残り、非常に良いと思う。 ・英語(外国語)を身近に接することで、興味が深まるのでとてもよい取組だと思います。地域学習、校外学習も「おおたの未来づくり」に大いに効果的であると思います。 ・本校の取組が他校と比べても相対的に地域資源を積極的に活用していることが保護者に伝わりきっていないのではないかと、しっかり取り組んでいると思うので、保護者の理解を得るにはどうすればよいか考えていきたいと思います。 ・子どもたちが興味をもって楽しく取り組んでいると思います。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	3: 70% 以上	B	0				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												4	0		
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	3: 70% 以上	B	0											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	0																
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																		

ます	<p>国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。</p>	<p>③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。</p>	<p>2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	4		2: 60%以上	<p>3</p> <p>おたの未来づくりの時間等において、国際社会や地域社会の諸問題について調べることを通して、自分との関連や自分にできることを考えている。また、分かったことや考えたことを発表することで課題と向き合い行動する力の育成を図っている。</p> <p>④実際には、どの学年も学校支援地域本部(スクールサポート調布大塚)等と連携して区内資源を活用した地域学習や校外学習の充実を図っている。「おたの未来づくり」及びその素地づくりの時間にも区内資源を活用した学習を行っている。実践したことや課題を共有し、改善しながら、より良いものにしていく。</p>	C	0
<p>た一個別の目標と基礎となる個性と能力を育成し発揮する</p>	<p>児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。</p>	<p>①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。</p> <p>②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。</p> <p>③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。</p> <p>④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。</p> <p>⑤学習の振り返りや「予習」「復習」に取り組むことで、児童が自らの学習改善に生かせるようにしている。</p>	<p>4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	4	<p>【児童評価】 ・学校のきまりを守っている。95% ・体を動かすことが好き。85%</p> <p>【保護者評価】 ・お子さんは、挨拶や約束を守る生活習慣を身に付けている。90% ・お子さんは、早寝早起き朝ごはんの習慣が身に付き健康である。88%</p>	4: 肯定的評価 90%以上	<p>4</p> <p>①「特別の教科 道徳」の学習を積み重ね、道徳心や他者を理解する心を育てている。きまりを守るという意識が育つ中で、その意義を理解していけるように、各教科や特別活動などの場面を通して指導を継続していく。 ②習熟度別に応じた内容や進度で授業を進めることができた。教師の説明を児童が自分の言葉で説明したり、図や表を見せながら伝え合う活動を多く取り入れたりすることで、学習の理解を深めることができた。 学習支援員によるT2の支援や放課後補習教室など、個に応じた学習支援も充実させることができた。 ③体育科指導について実技研修やOKJ研修を実施し、学習の充実を図っている。生活指導や保健の学習を通して、生活習慣や健康について考える機会を継続して設けていく。 ④年4回の小中一貫教育で各教科ごとに目標を設定し、課題を分析することで、小中連携して児童の3つの資質・能力の向上に努めている。幼保とは連携が不十分なのが現状としてある。 ⑤振り返りを通して、児童が学習の中で「自分が分かったことは何か」「まだ分からないことは何か」等、自己の理解状態を自分で認識できるように努めている。「予習」で分からなかったことがどのようにして分かるようになったのかを確かめたり、「復習」で理解したことを言語化したりすることで、自己の学習方法につい</p>	A	8
						3: 70%以上		B	1
						2: 60%以上		C	0
						1: 60%未満		D	0

学個別 校力・標 教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 【児童評価】 ・授業が分かる。92% 【保護者評価】 ・教員は、子どもたちにとって分かりやすい授業をしている。87%	4: 肯定的評価 90%以上	4	①昨年に引き続きOKJ(教えて考えさせる授業)による、インプットとアウトプットのバランスの取れた授業を目指している。「たしかめ」でのペア学習による理解確認、「チャレンジ」でのグループ学習による協働的な学びによって1時間の授業をデザインしてきた。隔週のミニ研究では、授業のことを考える時間も確保している。また、年3回の校内研究授業では、2校時～5校時まで授業を参観していただき、授業改善を図っている。今後も、校内授業研究やOJT研修などを通してさらなる授業改善を図っていく。	A	9	・先生方は、バランスの取れた授業を行っていると思う。「ペア学習」や「グループ学習」を取り入れて授業を進めている。 ・児童が行った学習成果をせせらぎ館においてビデオ展示する等よい取組だと思う。 ・「おたの未来づくり」もそうですが、しっかりとアウトプットする時間も多く良い。学習はアウトプットした時に、しっかり脳に記憶され理解が進むと思うので、今後もバランスよく取り入れてほしいと思います。 ・先生方が内外問わず多く研修等で学ばれアップデートされた情報が提供されて頼もしいです。 ・先生が子どもたちに飽きさせない工夫を施し、質の高い授業を行いこれにより先生自身のモチベーション維持につながっていると思います。 ・児童の評価方がいいのは良いが、残り8%も取り残さないよう進めてほしい。 ・地域連携も含めてしっかりと取組がなされていると評価します。 ・教職員みなさんの努力をいつも感じています。地域も協力します。						
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								3: 70%以上	B	0			
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。											2: 60%以上	C	0
		④「習得-探究サイクル」の授業デザインにより単元(題材)構成を工夫し、探究的な学びの質の向上を図っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。													
た自個 め別の 学し標 びく5 をいき 支援し ますと 生きる	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えらるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 【児童評価】 ・困っているときや悩んでいるときに相談する人がいる。83% ・学校が楽しい。90% ・他学年との関わりを大切にしている。85% 【保護者評価】 ・お子さんは、友好的で親和的な友達関係を築いている。95% ・教員に子どもの学習面や生活面のことを相談できるような、信頼感や安心感がある。79%	4: 肯定的評価 90%以上	4	①特別支援学校のセンター的機能を活用して、矢口特別支援学校のコーディネーターの巡回相談を行うことで、支援・指導の方法について検討する時間を設けた。また、それらを校内の教員にも共有した。特別支援全般の話や特別支援教室の概要について校内の教員に伝える機会を設定した。今後もOJTの機会にインクルーシブ教育について共有していきたい。 ②「いじめの見逃しゼロ」を掲げ、いじめを把握するためのアンケートを年3回実施し、その内容を教職員間で共有している。把握したいじめについては早急に対応し、早期解決を図っている。アンケート以外で発見したのものも含め指導については、記録を残している。年1回、安全指導の時間を使って、いじめは絶対に許されない行為であることを指導している。全学級で年3回以上いじめに関する授業を行っている。長期休業前には、SOSを出す指導を全校児童に行い、不安や悩みがある場合は、些細なことでも身近にいる信頼している大人に相談するよう、指導している。また、12月より毎月、いじめを把握するためのアンケートを行うこととした。 ③④学校だより等でスクールカウンセラーやサポートルームについての発信を増やし、それぞれの内容や利用方法なども保護者に伝え、より身近な存在にし、利用しやすくなるようにした。ほっとルームについて、利用児童の過ごし方の様子を観察したり、利用児童の特性を考慮しながら、レイアウト等を変更していった。	A	7	・「いじめ見逃しゼロ」アンケートを実施しているということだったが、学校運営協議会においてアンケート内容の結果等議題になったことがなかった。現状を知っていくことが運営上、必要ではないかと思う。 ・たてわり班の実施は継続して取り組んでほしい。 ・先生方はやる事が多く大変かと思いますが、アンケート実施、スクールカウンセラーとつながりやすさを継続してもらうことでさらに良い環境になる事を期待します。 ・不登校児童の保護者の横のつながりを支援できる場があると大変ありがたいです。不登校の理由も様々で難しいとは思いますが。 ・全員が同じではないという前提に立ち、違いを認めることにより差別のない関係が築けるものと思います。 ・保護者の横のつながりを持つ機会があるとより環境がよくなると思う。 ・児童評価、保護者評価が共に高く、学校からの指導や支援が子どもたちに伝わっていると思います。 ・児童それぞれの個性に向き合う工夫がされていると思います。						
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。								3: 70%以上	B	1			
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											2: 60%以上	C	0
		④特別支援教育コーディネーターを要とした校内支援体制の充実を図るとともに、「ほっとルーム」(校内教育支援センター)や	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。													

		「サポートルーム」等によるこどもの居場所づくりの運用を進めている。	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1							
安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的境 な学 習空 間と安 全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【児童評価】 ・自分の命は自分で守る行動ができています。98% ・学校や家庭での約束を守って学習用タブレットを使っている。96%	4: 肯定的評価 90%以上	3	①地域の伝統行事や特色ある文化に触れる学習を年間指導計画に位置付け、総合的な学習の時間や社会科と関連させて実施している。地域の方の協力を得て体験的な学習を増やすとともに、児童が学んだことを学校内へ発信する場を設け、学校の特色づくりにつなげていく。日常の安全指導を継続しながら、校舎内外の環境整備を進め、児童が安心して学習・生活できる場づくりに努めている。児童自身が安全に対する意識を高められるよう、危険箇所の気付き活動や、学級・委員会での話し合い活動を取り入れ、安全な学校づくりに主体的に関わる機会を増やしていく。 ②避難訓練と安全指導日を月に1回実施し、災害についての知識を付けたり、実際に避難したりすることをくり返している。また、地域の消防署、警察署、区の防災課の協力や指導助言を仰ぎながら、体験活動等も行っている。 ③月に1度15分の教員研修を計画し、企画運営した。2学期には、ワークショップ型の教員研修を実施し、タブレットを活用した表現方法について教員のスキルアップを図った。また、GIGA通信を発行し、個別最適な学び・協働的な学びに効果的な活用方法について発信した。デジタル教科書等を用いて視覚的に分かりやすく情報を伝えることは全教員できている。一方で、日常の授業スタイルには改善の余地がある。目的に応じて、一斉指導	A	6	・よくできていると思うが、今後もいろいろな突発事案に対処した訓練を継続してほしい。 ・引き続き地域と連携して社会科等の深い学びを提供してほしいと思います。 ・学校での防災活動拠点訓練にも、より多くの児童に参加してもらいたいです。 ・自分の命は自分で守ることの大切さを認識していることは素晴らしい。災害発生時の対処の仕方などは地域防災訓練などへの積極的な参加をぜひ求めます。 ・学校防災拠点訓練にも子どもたちがさんかすると良いのでは。災害が起きた時、地域の人たちはどう動くのかを知り、課題を共有することも大切だと思う。 ・更なる取組に期待しています。 ・地域と共に取り組めることに引き続き協力したいです。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	59% ・学校は、施設や設備が安全であり、清潔な環境維持に努めている。92% ・学校は、学習用タブレットを効果的に活用して授業を進めている。85%	2: 60%以上			B	2	
		③「GIGA推進チーム」を中心に、学校組織全体で学習用タブレットの効率的・効果的な活用を推進している。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1: 60%未満			C	0	
学地学個 校域校別 をコ・目 つミ家標 くユ庭フ リニ・ ますイ 地域の 核連 と携 して協 働による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【児童評価】 ・地域や社会をよりよくするために何ができるかを考えている。82.125% (イノベーションシートの内容を意識して、行動を変えることができています) 【保護者評価】 ・学校からの情報発信は分かりやすい。79%	4: 肯定的評価 90%以上	3	①コミュニティスクールとして、毎月一回学校運営協議会を開催している。本校の取組を委員に説明をし、地域と学校が、こども一人一人が充実した学びの実現に向けて連携を図っている。 ②児童誘導員やPTA役員の方々の協力を得ながら、登下校の見守り活動を行っている。また、1年生は、1・2学期に、横断歩道の渡り方や歩行の仕方を登下校する際に注意する点を警察署の方にお話していただいた。今後も、地域の協力を得ながら、登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を実施していく。 ③学校便りや各学級のclassroomなどを通して情報発信を行っている。また、地域資源を活用した学習を展開することによって、地域・保護者との関係を深くし、地域・学校が連携して学校教育を行っている。来年度は土曜授業の時間設定を見直し、学校で学習していることが地域・保護者により伝わるようにする。 ④ホームページについては、GIGA推進担当が研修を行い、個人で記事を作成できるようにした。その結果、各学年月に1回以上の更新ができています。引き続き、児童の様子を情報発信できるよう声を掛ける。クラスルームについても、日々の授業連絡を送り児童が確認することが定着している。今後も継続する。	A	6	・学校運営協議会の際、校長、副校長から現在の状況、取組等の説明があり、おおむね適切である。他校における大きな事件、事象が発生した際など、積極的に意見聴取して取り組んで実施すると良いと思う。 ・ホームページ等での情報発信も頻度が増えてありがたいです。来年度の土曜授業も楽しみにしています。 ・地域のイベントに積極的に参加することで地域との繋がりがや仕組みを学び、地域全体で子どもたちの安心安全を守っているシステムになっていると思います。 ・盆踊りや餅つきなど地域の行事の場として快く協力していただき地域コミュニティの核としての学校を大変ありがたいと思います。学校側から地域の事を気にかけて、声をかけていただくこともありとても助かっています。子どもたちの健全な成長のためにも地域の一人としてがんばります。 ・広報は常に課題だと思ふ。保護者が知りたいと思う情報と学校が発信したいと考える情報のギャップがあるのでは。集まって行う保護者会が減り、保護者の考えを学校が拾う機会が減っているのでは。 ・経営陣の指導力、取組施策を評価しています。 ・近年PTA活動も細々している中、もっと地域、保護者が学校と協力して子どもたちをたくさんの手で豊かに育てていきたいです。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2: 60%以上			C	0	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1: 60%未満			D	0	
		④学校ホームページやGoogleclassroomによる情報発信の充実を推進している。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す